

授 業 要 項 (令和7年度分)

2 年 生

作業療法学科

授業科目名			キャリアマネジメント論Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		スズ 鈴		キ 木		テツ 哲	
開 講 学 期			前期									
対 象 学 科 及 び 学 年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	15 1	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別		必修		
科 目 概 要			就職先が求める人材像や報酬等について学び、自己分析や企業分析の演習を行うことを通じ、在学中のキャリア形成活動に必要な基礎的能力を身に着ける									
到 達 目 標			・ 企業分析の方法に関する知識を獲得する。 ・ 企業分析を行う経験をする。									
回数	授 業 内 容									担 当		
1.2	オリエンテーション 授業の目的と内容理解、到達目標の理解 キャリアマネジメント論Ⅰの復習 幸せの構成要因の優先順位と、ライフキャリアにおける自己分析（演習） 働く意味・目的と、ワークキャリアにおける自己分析（演習）									鈴木 哲		
3.4	就職先が求める人材とは？ 理学療法士・作業療法士の報酬と求人票 企業分析の方法									鈴木 哲		
5.6	ワークキャリアにおける自己分析と企業分析（演習）									鈴木 哲		
7.8	発表									鈴木 哲		
アクティブ ラーニング		ライフキャリアにおける自己分析を行う。 ワークキャリアにおける自己分析を行う。 企業分析を行う。										
評 価 基 準		出席日数と授業態度によって評価を行う										
教 科 書		適宜資料を配布する。										
参 考 書		特になし										
実務経験に 関する記述												

授業科目名		解剖学－実習－		(フリガナ) 担当教官名		ホリ 堀 カリ 菊	エ 江 タ 田	タカ 貴 テツ 哲	フミ 文・ ヤ 也	カン 神	ダ 田	イチ 一	ロ 路
開 講 学 期		前期											
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	実習	必修・選択 の 別		必修				
科 目 概 要		人体各器官の模型を用いながら、神経系、内臓器系、運動器系の3分野に分けた実習を行う。実習はPT学科・OT学科合同のグループワークとする。全体で9グループ作成し、神経系、内臓器系、運動器系それぞれで3グループずつ配置し、5コマ毎に各分野をローテーションしながら全ての分野の学習を行わせる。担当教員は事前に各分野に関する予習課題を課し、各分野授業開始時に小テストを行う。また学習終了時に理解度の確認のための口頭試問を行う。											
到 達 目 標		・各系統を構成する個々の器官の形態や構造および互いの立体的に位置関係を正しく理解し説明できるようになる。 ・模型を用いて人体各器官の立体的な構造を理解することにより、講義で学んだ知識と関連付け、説明することが出来る。											
回数	授 業 内 容										担 当		
1～15	①オリエンテーション（到達目標、授業の流れ等） ②PT・OT 合同で9グループに分かれる。 ③②のグループを神経系、内臓器系、運動器系の各分野で3グループずつに分ける。 ④各分野に対し5コマずつ学習を行い、ローテーションしながら15コマで全分野の学習を行う。										堀江貴文 神田一路 菊田哲也		
アクティブ ラーニング		各分野の解剖学的構造に関する予習課題を課し事前学習を行わせ、各分野における授業開始時に小テストを実施する。実習はグループ学習を基本とするため、グループメンバー全員が相互に協力して実習を遂行する必要がある。											
評 価 基 準		出席状況（10％）小テスト（30％）、口頭試問（60％）により判定する。口頭試問は学習期間内に必ず合格することを原則とする。 3領域すべての合格で単位認定とする。不合格の分野についてはその分野の担当教員による個別指導を行い、合格するまで学習を継続させることとする。											
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第5版）（奈良 勲ら監修、医学書院）											
参 考 書		Q シリーズ 新解剖学（第6版）（加藤 征監修、日本医事新報社）											
実務経験に 関する記述		総合病院において、7年間専任理学療法士として従事し、回復期病棟、医療療養病棟、外来における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が、解剖学の基礎から立体的構造、各器官の相互的位置関係に至るまで、人体各器官の構造を総合的に学ばせる。											

授業科目名			生理学実習		(フリガナ) 担当教官名		ハシモト 橋本 カンダ 神田		ミチ オ 道男・山崎 イチ ロ 一路・菊田		ヤマサキ 山崎 カリ タ 菊田		ケン ジ 健治・後藤 テツ ヤ 哲也		ゴ トウ 後藤 トモ キ 智基	
開 講 学 期			前期													
対 象 学 科 及 び 学 年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年		時 間 数 単 位 数	45 1	授 業 形 態	実習	必修・選択 の 別			必修				
科 目 概 要			生理学の講義で学習した生体の諸機能のうちで重要な項目を選び、実習によってこれらが真実であることを認識するとともに、生理学的な生体機能の考察を通じて生理学の知識と理解を更に深め、療法士としての資質を高めることを目的とする。													
到 達 目 標			①各テーマごとに必要な生理学の知識を復習し、修得できる ②各自が責任をもちグループ内で協働し実習に取り組むことができる ③実習で得た結果について、生理学的知識を用いて考察できる ④担当教員の指導をもとにレポート作成、発表準備、発表を行うことができる													
回数		授 業 内 容											担 当			
1		オリエンテーション 授業の目的、内容、到達度等について説明する。											山崎健治			
2		確認小テスト											山崎健治			
3～5		Ⅰ－1. 神経の興奮と伝導 誘発筋電図を使用して神経伝導速度の測定を行う。さらに駆血させた状態では、神経伝導速度がどのように変化するか観察して、その要因を考察する。 Ⅰ－2. 筋長と筋収縮力の関係（長谷川奈保） ハンドヘルドダイナモメーターを使用して、肘関節の角度毎の屈曲力を測定する。角度による肘屈曲力の変化を観察し、その要因を考察する。											橋本道男 菊田哲也			
6～8		Ⅱ．感覚と反射 体性感覚の特性について実験を通じて確認し、受容器や神経、脳の機能局在の特徴から考察する。また、伸張反射を観察し、そのメカニズムを考察する。											後藤智基			
9～11		Ⅲ．換気とガス交換の生理 スパイロメーターを用いて肺活量等を測定する。体幹を側屈させた場合では排気量にどのような変化が起こるか観察し、その要因を考察する。 また、パルスオキシメーターを使用して酸素飽和度を測定する。息こらえなどの操作により、酸素飽和度がどのように変化するか観察し、その要因を考察する。											山崎健治 神田一路			
12～14		Ⅳ．運動と代謝 呼気ガス分析装置を用いて、運動時の酸素摂取量、二酸化炭素排出量等を測定する。それらの結果からエネルギー代謝の状態を考察する。											山崎健治 後藤智基			
15～17		Ⅴ．腎機能と水分調整 蒸留水や等張液、運動負荷などで尿量や尿の塩濃度、比重がどのように変化するか観察する。そして、その変化の要因について考察する。											橋本道男 菊田哲也			
18～20		Ⅵ．心臓の活動と心電図 実際に心電図を測定することで、心臓の刺激伝導系について確認する。加えて、バルサルバ手技により心拍数がどのように変化するか観察し、その要因を考察する。											神田一路			
21～23		報告会 各グループごとにテーマを担当し、発表する。											担当教員全員			
アクティブ ラーニング		実習を通じて1年次に学んだ生理学の知識について再確認するとともに、理解を深める。最終的にグループごとにテーマを指定し、クラス全体の結果をまとめ、考察を行い、報告会において発表する。														
評 価 基 準		課題取り組み状況 10%、レポート内容 60%、発表内容 20%、確認小テスト 10% ※上記に関わらずレポートの提出ができなかった場合は単位を認めない														
教 科 書		・標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版（医学書院） ・実習書を配布する														
参 考 書																
実務経験に 関する記述																

授業科目名			臨床心理学		(フリガナ) 担当教官名		シ 執 行 ミ 三 カ 佳		
開 講 学 期			後期						
対 象 学 科 及 び 学 年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 2	授 業 形 態	講義	必修・選択 の別	必修
科 目 概 要			臨床心理学は、対人援助識者が被援助者の心情理解をするにあたって重要な分野である。この授業では、臨床心理学の歴史、理論的背景、主な支援方法、現代的なトピックスを概説するとともに、様々なワークを通して自己理解及び他者理解を深める。						
到 達 目 標			・臨床心理学的支援の理論と介入方法の概要を説明できる。 ・臨床心理学的見地から、支援者としての自分の意見をまとめ、表現することができる。						
回数	授 業 内 容								担 当
1	オリエンテーション、臨床心理学を学ぶ意義、臨床心理学の目指すもの								執行三佳
2	臨床心理学の歴史、臨床心理学的支援に関わる基本的な理論								執行三佳
3	精神的健康とは何か								執行三佳
4	インテーク面接とアセスメント								執行三佳
5	臨床心理学的支援（1）精神分析の理論								執行三佳
6	臨床心理学的支援（2）精神分析療法								執行三佳
7	臨床心理学的支援（3）行動療法・認知行動療法								執行三佳
8	認知行動療法的アプローチの実際								執行三佳
9	臨床心理学的支援（3）人間性心理学								執行三佳
10	聴くことについて（傾聴・カウンセリングの模擬体験）								執行三佳
11	トピックス（1）発達障がいと合理的配慮								執行三佳
12	トピックス（2）心の危機								執行三佳
13	日本の臨床心理学的課題								執行三佳
14	対人援助職者のメンタルヘルス								執行三佳
15	テスト								執行三佳
アクティブ ラーニング			自分自身の心を見つめることを通して学ぶことを重視する。そのため、すべての回において、導入としてのワーク、学びを深めるワーク、自己理解を深めるワーク、被援助者の模擬体験をするワークのいずれか1つ以上を行う。						
評 価 基 準			レポート1回：10%（独自の意見・感想が表現されていること） 毎回の感想シート：10%（同上） テスト：80%						
教 科 書			「はじめての講義 リハビリテーションのための臨床心理学」 牧瀬英幹著（2021） 南江堂						
参 考 書			よくわかる臨床心理学改訂版・下山晴彦編・ミネルヴァ書房 臨床心理学とは何だろうか 基本を学び、考える・園田雅代、無藤清子編・新曜社						
実務経験に 関する記述			精神科の入院、外来、デイケアにおける支援、スクールカウンセリング、乳幼児健診での相談業務、心療内科クリニック、学生相談での臨床経験を持つ教員が、各領域における連携事例を含む支援事例を提示し、こころに対する知見と態度を醸成する教育を行う。						

授業科目名			内科学		(フリガナ) 担当教官名		神田 武志・村川 洋子・渡邊 伸英 小谷 暢啓・佐野 千晶・石原 慎一郎 川原 洋・長尾 大志・小川 典子 岡田 明彦・片岡 祐俊・尾上 正樹		
開講学期			前期・後期						
対象学科 及び学年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	45 3	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要			基礎医学の知識を基にして、臨床医学の基本となっている内科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を養成することを目的とする。						
到達目標			理学療法士、作業療法士の養成施設指導要領に求められる基本的な内科学的知識の取得ができる。						
回数	授業内 容								担 当
1	膠原病								村川 洋子
2									
3	アレルギー疾患								菊田 哲也
4	腎機能障害 血液透過療法、透析合併症								神田 武志
5									
6	代謝異常症								小川 典子
7									
8	感染症 中毒、物理的原因による疾患								佐野 千晶
9									
10	循環器疾患 循環器解剖学・生理学、心電図等の検査 心不全の病態、虚血性心疾患 画像診断								小谷 暢啓 渡邊 伸英 川原 洋
11									
12									
13									
14									
15	内分泌疾患 下垂体、甲状腺疾患の病態								石原慎一郎
16									
17	消化器疾患 消化器疾患の症候、検査法 口腔・食道・胃・小腸・大腸の疾患 肝臓疾患の各論、胆膵疾患の総称 画像診断								岡 明彦 片岡 祐俊 尾上 正樹
18									
19									
20									
21	呼吸器疾患 気管支喘息と COPD、間質性肺炎 画像診断								長尾 大志
22									
23									
アクティブ ラーニング									
評価基準		期末試験、小テスト、出席の総合得点で評価							
教科書		標準理学療法学・作業療法学・基礎分野 内科学 第4版 前田眞治他 医学書院							
参考書		EBM 現代内科学 黒川清 他編 金芳堂 内科診断学（改訂第9版）黒川清 他編 金芳堂 新臨床内科学（改訂第9版）高久史磨 他監修 医学書院							
実務経験に 関する記述		本科目はオムニバスであり、各専門分野の認定医資格（腎臓専門医、透析専門医、総合内科専門医、内科専門医）を持つ医師が、大学病院で日々臨床診療に携るなか、経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。							

授業科目名	整形外科学		(フリガナ) 担当教官名	内尾 祐司・山本宗一郎・山上 信生 今出 真司・門脇 俊・真子 卓也 多久和紘志・西 英明・岩佐 潤二 栗岡 秀行・柿丸 知之				
開 講 学 期	通年							
対 象 学 科 及 び 学 年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	45 3	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別	必修	
科 目 概 要	運動器の変形・外傷・炎症・変性・代謝疾患・腫瘍についての病態を理解するとともにそれらの診断法、治療法の知識を習得し、選択する判断力を養う。							
到 達 目 標	1. 骨、関節、筋の構造と機能を知るとともに整形外科的診断法の意義を理解する。 2. 頻度の高い骨折、脱臼、捻挫の病態、症状、合併症を理解する。 3. 上肢、下肢、脊椎の代表的疾患と外傷の病態と治療法を理解する。 4. 骨・関節感染症の特徴と診断法および治療法について理解する。 5. 骨・軟部腫瘍の診断法、治療法について理解する。 6. 骨系統疾患、代謝疾患の特徴、診断法および治療法について理解する。							
回数	授 業 内 容						担 当	
1	運動器の構造と機能、病態生理						内尾	
2	診断学、検査						西	
3	治療						岩佐	
4	運動器の外傷						栗岡	
5	骨軟部腫瘍						柿丸	
6	骨・関節感染症、骨系統疾患						多久和	
7	変形性関節症、代謝性疾患						多久和	
8	関節リウマチおよび類縁疾患						西	
9	スポーツ外傷・障害						門脇	
10	運動器リハビリテーション						西	
11	脊椎・脊髄の外傷						真子	
12	脊椎・脊髄の疾患						真子	
13	肩関節・上肢帯の外傷						山本	
14	肩関節・上肢帯の疾患						山本	
15	肘・手関節・手の外傷						山上	
16	肘・手関節・手の疾患						山上	
17	骨盤・股関節・大腿の外傷						門脇	
18	骨盤・股関節・大腿の疾患						門脇	
19	膝関節の外傷						多久和	
20	膝関節の疾患						多久和	
21	下腿・足関節・足の外傷						岩佐	
22	下腿・足関節・足の疾患						今出	
23	下腿・足関節・足の疾患						今出	
アクティブ ラーニング								
評 価 基 準	プレゼンテーション 30%、期末試験 50%、出席日数・授業態度 20%							
教 科 書	運動器疾患とリハビリテーション 第2版（医歯薬出版）							
参 考 書	標準整形外科学／松野丈夫〔ほか〕編集、第12版、医学書院							
実務経験に 関する記述	大学病院、総合病院にて10年以上、臨床経験を持ち整形外科専門医資格を持つ教員が整形外科疾患について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。							

授業科目名		神経内科学		(フリガナ) 担当教官名		オグロ 小黒		ヒロアキ 浩明・渡邊	ワタナベ 達三・飯島	タツゾウ イイジマ 猷一	ケンイチ
開講学期		通年									
対象学科 及び学年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	45 3	授業 形態	講義	必修・選択 の別		必修		
科目概要		神経内科疾患を診断し、リハビリテーションを行う時の効果的介入を行うことができることを目標に、(1) 神経学的診断法、検査法、(2) 主要な神経・筋疾患の病態を修得する。									
到達目標		・ 主要神経疾患の成因と病態、症候、検査及び治療を理解できる ・ 神経難病対策の社会的意義を理解できる									
回数	授業内 容									担 当	
1	障害とリハビリテーションプログラム									飯島猷一	
2	中枢神経系の解剖と機能									飯島猷一	
3	神経学的検査法									飯島猷一	
4	意識障害、脳死、植物状態									小黒浩明	
5	頭痛、めまい、失神									小黒浩明	
6	運動麻痺、錐体路徴候、筋委縮									小黒浩明	
7	錐体街路徴候、不随意運動									小黒浩明	
8	運動失調									飯島猷一	
9	感覚障害									渡邊達三	
10	高次脳機能障害；失語症									渡邊達三	
11	高次脳機能障害；失認									渡邊達三	
12	高次脳機能障害；失行									渡邊達三	
13	高次脳機能障害；記憶障害、認知症、遂行（実行）機能障害									渡邊達三	
14	構音障害、嚥下障害、脳神経領域の疾患									渡邊達三	
15	脳血管障害									渡邊達三	
16	認知症									渡邊達三	
17	脳腫瘍、外傷性脳損傷									渡邊達三	
18	脊髄疾患									渡邊達三	
19	変性疾患									渡邊達三	
20	錐体街路の変性疾患									渡邊達三	
21	末梢神経障害、てんかん、筋疾患									渡邊達三	
22	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による疾患									渡邊達三	
23	小児神経疾患、廃用症候群と誤用症候群、合併症、排尿障害、性機能障害									渡邊達三	
アクティブ ラーニング											
評価基準		定期試験、小テスト、出席の総合評価で 60 点以上の得点者を合格とする。 60 点未満については、再試験を実施する。									
教科書		川平和美編「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学（第 5 版）」(医学書院)									
参考書		田崎義昭・斎藤佳雄「ベッドサイドの神経の診かた」改訂 18 版（南江堂）									
実務経験に 関する記述		20 年以上臨床経験を持つ神経内科学領域の専門医が、具体的な症例を提示し、実践的 教育を行う。									

授業科目名		精神医学		(フリガナ) 担当教官名		ワ ケ レイ 和 氣 玲		
開 講 学 期		前期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年 作業療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	30 2	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		精神疾患の概要と治療法について学ぶ。 面接、診断方法を学び、本人とその家族をどう支援するのかについても理解する。						
到 達 目 標		①精神疾患の概要と取り巻く環境の基本的知識について理解できる。 ②精神疾患について症状、原因、経過、治療、対応法について理解できる。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	序説・第1章 精神医学とは 第2章 精神障害の成因と分類							和 氣
2	第3章 精神機能の障害と精神症状 第4章 精神障害の診断と評価							和 氣
3	第5章 脳器質性精神障害 第6章 症状性精神障害							和 氣
4	第7章 精神作用物質による精神および行動の障害							和 氣
5	第8章 てんかん							和 氣
6	第9章 統合失調症およびその関連障害							和 氣
7	第10章 気分（感情）障害							和 氣
8	第11章 神経症性障害							和 氣
9	第12章 生理的障害および身体的要因に関連した障害 第13章 成人の人格・行動・性の障害							和 氣
10	第14章 精神遅滞 第15章 心理的発達の障害							和 氣
11	第16章 コンサルテーション・リエゾン精神医学							和 氣
12	第17章 心身医学 第18章 ライフサイクルにおける精神医学							和 氣
13	第19章 精神障害の治療とリハビリテーション							和 氣
14	第20章 精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション 第21章 社会・文化とメンタルヘルス							和 氣
15	試験							和 氣
アクティブ ラーニング								
評 価 基 準		期末試験（60％）、出席状況や参加態度（40％）						
教 科 書		「標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）精神医学」第4版 増補版 上野武治 編集 医学書院						
参 考 書		適宜紹介および資料配布						
実務経験に 関する記述		精神保健指定医、臨床心理士、公認心理師などの資格を持ち、精神科病院で常勤医として20年以上臨床診療に携わる医師が実践的な教育を行う。						

授業科目名		小児科学		(フリガナ) 担当教官名		タケ 竹		タニ 谷	タケシ 健		
開講学期		後期									
対象学科 及び学年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別		必修		
科目概要		・子どもの特性・正常発達、小児保健の概要を説明する。 ・小児の疾患を説明して、原因、症状、検査、治療、管理を説明する。									
到達目標		・小児の特徴を理解する。 ・小児の正常な発育・発達を理解する。 ・小児の各種疾患の病態、症状、治療法を理解する。									
回数	授業内容								担当		
1	小児科概論								竹谷 健		
2	小児保健								竹谷 健		
3	小児の診断と治療								竹谷 健		
4	小児の感染症・呼吸器								竹谷 健		
5	小児の循環器								竹谷 健		
6	小児のけいれん疾患								竹谷 健		
7	小児の腎・泌尿器・消化器								竹谷 健		
8	小児の内分泌								竹谷 健		
9	新生児・未熟児								竹谷 健		
10	小児の免疫・アレルギー								竹谷 健		
11	小児の血液・腫瘍								竹谷 健		
12	小児の神経・筋疾患								竹谷 健		
13	先天異常、奇形								竹谷 健		
14	重症心身障害児								竹谷 健		
15	小児科まとめ								竹谷 健		
16	試験								竹谷 健		
アクティブ ラーニング											
評価基準		試験 90%、出席日数・授業態度 10%									
教科書		ナースとコメディカルのための小児科学 改訂第6版 へるす出版									
参考書		小児科学 改定第10版 文光堂									
実務経験に 関する記述		小児科専門医の認定を持ち、大学病院で臨床診療に携る医師が、日々の診断で経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。									

授業科目名		リハビリテーション栄養学		(フリガナ) 担当教官名		ナワタ キヨ コ 名和田 清 子		
開 講 学 期		後期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年 作業療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	15 1	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		リハビリテーションを行っている障がい者や高齢者の多くに、低栄養を認めることが明らかとなってきた。本科目では、リハビリテーションと栄養の関連を理解し、障がい者や高齢者の栄養管理に関連職種と連携して行うための知識と技術を習得することを目的とする。具体的には、栄養の概念とその役割を学ぶとともに、栄養管理の実践に必要な栄養補給法や栄養管理プロセス、多職種連携等について学修する。						
到 達 目 標		・ 栄養の概念と意義について説明できる。 ・ リハビリテーションと栄養の関連、障がい者や高齢者等における栄養管理の意義について説明できる。 ・ リハビリテーション栄養管理プロセスについて説明できる。 ・ NST（Nutrition Support Team）における理学療法士・作業療法士の役割、関連職種との連携の意義を理解する。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	栄養とは 日本人の食生活と栄養素摂取量、健康の現状と課題							名和田清子
2	栄養とは 主な栄養素とその役割、栄養と人体							名和田清子
3	必要栄養素量の算出 日本人の食事摂取基準、エネルギー消費量 栄養補給法							名和田清子
4	リハビリテーションと栄養 リハビリテーション栄養チームにおける PT・OT・ST の役割							名和田清子
5	リハビリテーションと栄養、栄養ケアプロセスとリハビリテーション栄養ケアプロセス							名和田清子
6	低栄養 障がい者・高齢者の栄養管理							名和田清子
7	主な疾患のリハビリテーション栄養 サルコペニアの摂食嚥下障害							名和田清子
8	主な疾患のリハビリテーション栄養 脳卒中他							名和田清子
9	試験							名和田清子
アクティブ ラーニング	栄養療法のチームアプローチにおける理学療法士・作業療法士の役割、関連職種との連携の意義についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。							
評 価 基 準	期末試験 90%、平常点（授業への参加態度、準備学修の程度、提出物など） 10%							
教 科 書	PT・OT・ST のための リハビリテーション栄養 第3版 基礎からリハ栄養ケアプロセスまで 若林秀隆 著 医歯薬出版社							
参 考 書	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 栢下淳・若林秀隆 編著・医歯薬出版社							
実務経験に 関する記述	国立大学付属病院にて 21 年間の管理栄養士としての実務経験を有すると同時に、国立大学内科での 15 年間の実践研究の実績を有する教員が具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。							

授業科目名			薬理学		(フリガナ) 担当教官名		ナオ 直			ラ 良		コウ 浩		ジ 司	
開 講 学 期			後期												
対 象 学 科 及 び 学 年			理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	15 1	授 業 形 態	講義		必修・選択 の 別			必修			
科 目 概 要			薬物療法においては、薬物を投与したときに生じる生体側の反応と、投与された薬物の生体内での変化の両方を考える必要がある。薬物治療に用いられる主要な薬物について、薬理作用、薬物動態ならびに臨床使用上の注意を概説する。												
到 達 目 標			1. 各疾病において使用されている主な薬物について、その作用機序を理解する。 2. 各疾病において使用されている主な薬物について、体内動態、副作用、適応上の留意事項などを理解する。 3. 薬物療法の知識が理学療法・作業療法を受ける患者のケアに応用できる。												
回数		授 業 内 容										担 当			
1		総論1：薬物療法の概念、薬物の体内動態										直良浩司			
2		総論2：薬効に影響する因子、薬物の有害作用										直良浩司			
3		各論1：抗感染症薬、抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬										直良浩司			
4		各論2：末梢神経系作用薬（交感神経作用薬、副交感神経作用薬、運動神経作用薬、局所麻酔薬）										直良浩司			
5		各論3：中枢神経系作用薬（睡眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬、抗てんかん薬、認知症治療薬、麻薬性鎮痛薬）										直良浩司			
6		各論4：循環器系作用薬（降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、利尿薬、抗不整脈薬）										直良浩司			
7		各論5：循環器系作用薬、消化器系作用薬、泌尿器系作用薬、血液・造血器系作用薬										直良浩司			
8		各論6：物質代謝作用薬、消毒薬										直良浩司			
アクティブ ラーニング															
評 価 基 準		出席状況 20%、期末試験 80%													
教 科 書		適宜講義資料を配付する。													
参 考 書		「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学」（第15版）医学書院 「PT・OT のための治療薬ガイドブック：リハビリテーション実施時の注意点」（第1版）メジカルビュー社													
実務経験に 関する記述															

授業科目名		医療安全・救急救命技術論		(フリガナ) 担当教官名		タニ グチ カ オ リ 谷 口 かおり ・ 奥出雲町消防士		
開 講 学 期		後期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	15 1	授 業 形 態	講義・ 実技	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		【医療安全】 医療の専門職として、医療事故、医療過誤に関する知識を学び、対象者に質の高い、安全な理学療法、作業療法を保証できる能力を養う。 【救命救急技術論】 医療人として必要な応急手当や心肺蘇生法についての知識・技術を学ぶ。						
到 達 目 標		【医療安全】 事例をもとに医療安全に必要な知識を身に付け、医療の専門職としての責務を自覚することができる。 【救命救急技術論】 心肺蘇生法および止血法や自動体外式除細動器（A E D）について正しく理解し、普通救命講習Ⅱの資格を取得することができる。						
回数	授 業 内 容							担 当
1・2・3	応急手当の重要性 心肺蘇生法、止血法について 心肺蘇生法に関する知識および技術の確認							奥出雲町 消防士
4	医療安全の基礎知識							谷口かおり
5	医療従事者の法的責任							谷口かおり
6	チーム医療と医療安全、KYT							谷口かおり
7	Team STEPPS							谷口かおり
8	Team STEPPS							谷口かおり
アクティブ ラーニング	医療事故の事例から、チーム医療としての必要な安全対策をグループワークで実施する。							
評 価 基 準	認定試験 100% 講義への参加・意欲 40%、グループワークで学修および発表 60%							
教 科 書	医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして 看護学テキスト Nice							
参 考 書	適宜配布する							
実務経験に 関する記述	【医療安全】 医療安全では、看護師として大学病院で急性期医療に16年、診療所での在宅医療・慢性期医療に3年の臨床経験を持つ教員が、あらゆる臨床現場での医療安全について、医療過誤の事例などを提示し、実践的教育を行う。 【救命救急技術論】 救急救命では、救急救命士の資格を持つ消防士が講師として、全国統一カリキュラムの中でAEDの使用方法や、心肺蘇生法等について実技を踏まえて教授し、普通救命講習Ⅱの資格を取得する。							

授業科目名		老年学		(フリガナ) 担当教官名		エン 遠 ドウ 藤 タケ 健 シ 史		
開 講 学 期		後期						
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2 年 作業療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	15 1	授 業 形 態	講義	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		高齢者は、各組織の劣化がみられる。それにより、単純な組織変化だけでも多岐にわたる。そしてその結果、運動・認知機能低下により各種の生活困難がみられる。その困難因子は想像すること、高齢者を視ること学ぶことができるが、多く学生はそれに気づいていないと思われる。本科目で学ぶことも重要であるが、より大事なのは、これから高齢者と関わるなかで高齢者の特徴を発見し続ける態度を身につけることである。そして、その特徴に合わせた対策を検討することが将来の高齢者リハビリ診療を作る根幹となることを期待する。						
到 達 目 標		・ 高齢者の身体的・認知的な特徴を述べるができる。 ・ それにより起きる障害を予測することができる。 ・ 身体機能、認知機能に障害をもつ高齢者のリハビリテーションのあり方を検討することができる。 ・ 老年学の知識を活用し、高齢化社会における課題解決について考えることができる。						
回数	授 業 内 容						担 当	
1	高齢者の衰弱する身体						遠藤健史	
2	退院調整会議：退院に必要な評価と対策						遠藤健史	
3	リハビリを困難にする因子：炎症・せん妄						遠藤健史	
4	致死的な疾患						遠藤健史	
5	よい看取り、触れる効果、Humanitude						遠藤健史	
6	情報取得の方法						遠藤健史	
7～8	試験の内容を想定した内容について、グループワークを行う。現時点で想定しているのは、退院調整や良い看取りのために何を準備すべきか、という内容である。						遠藤健史	
アクティブ ラーニング		学習内容を理解し、認知症の概念と対応について、認知症の各病型の具体的な問題点と対応策について、グループワークを行い学習を深める。						
評 価 基 準		出席点が20%、試験80%で判定し、合計60%以上を単位認定する。 60%に満たない場合は、1回に限り再試験を行う。						
教 科 書		適宜資料を配布する						
参 考 書		老年医学テキスト第3版（日本老年医学会編 メジカルビュー社） 標準理学療法学・作業療法学・老年学（第4版）（奈良 勲ら監修、医学書院）						
実務経験に 関する記述		隠岐、邑智、雲南、奥出雲と高齢化先進地域で勤務。内科的診療を中心とし、認知症対策、運動器疼痛対策をサブスペシャリティーとしてきた。現在、奥出雲病院では総合診療科として、その診療の延長を行い、地域作りに貢献したいと考えている。						

授業科目名		医療コミュニケーション演習		(フリガナ) 担当教官名		ニシコ 錦		オリ 織	ケン 健	ジ 次			
開 講 学 期		前期											
対 象 学 科 及 び 学 年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演 習		必修・選択 の 別		必修			
科 目 概 要		理学療法士・作業療法士の関わりは、個人や集団の意思決定に影響を与える。本科目では、理学療法士・作業療法士に求められる高度なコミュニケーション能力の必要性、重要性について理解を深め、演習を通して対象者の意思決定に必要なコミュニケーション技能を養う。加えて、チーム連携の上で必要な多職種間でのコミュニケーションについても学ぶ。											
到 達 目 標		・医療現場におけるコミュニケーションの基本理論を理解し、一部模擬的実践ができる。 ・他者の思いを引き出すことができる。 ・他者に意思を伝え、意思決定をすることができる。											
回数	授 業 内 容										担 当		
1	コミュニケーション論、チーム医療論での学びについて振り返り、医療コミュニケーション演習の目的、概要について説明する。										錦織健次		
2	学生同士で課題に取り組み、ディスカッションをし、まとめる。										錦織健次		
3	学生同士で課題に取り組み、ディスカッションをし、まとめる。										錦織健次		
4	人・場面に合わせたコミュニケーションを講義の後、学生同士で取り組み、改善点を挙げ、まとめる。										錦織健次		
5	人・場面に合わせたコミュニケーションを講義の後、学生同士で取り組む、改善点を挙げ、まとめる。										錦織健次		
6～7	例文を読み、必要な情報を考え、抽出し、伝わるようにまとめる。										錦織健次		
8	対象者に合わせたコミュニケーションについて考え、ディスカッションをし、まとめる。										錦織健次		
9～10	対象者の思いを引き出すコミュニケーションについて学生同士で取り組み、改善点を挙げ、まとめる。										錦織健次		
11～12	これまで取り組んだ内容を踏まえて実践してみる。										錦織健次		
13～14	振り返りとまとめ										錦織健次		
15	多職種連携について										錦織健次		
アクティブ ラーニング		グループワーク型式を中心に学習し、発表を行う。											
評 価 基 準		授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価 100%											
教 科 書		内山靖ほか（著）『コミュニケーション論・多職種連携論』（医歯薬出版株式会社）											
参 考 書		京極真（著）『信念対立解明アプローチ入門－チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』（中央法規出版） 水本清久ほか（編著）『インタープロフェッショナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 実際と教育プログラム』（医歯薬出版）											
実務経験に 関する記述													

授業科目名		研究方法論Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		ハナ　オカ　ヒデ　アキ　ヨシ　ダ　シュン　スケ 花　岡　秀　明・吉　田　俊　輔					
開講学期		前期・後期									
対象学科 及び学年		作業療法学科　2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別		必修		
科目概要		研究方法論Ⅰに引き続き、研究の基本的考え方、研究過程やデザインなどに加え、研究計画立案に必要な知識や注意点についても学習する。そして、本科目では、研究テーマを具体的に設定し、研究計画書を作成し、研究の実施から発表までの一連の過程を経験することで、作業療法士に必要とされる基本的な研究能力を育成する。									
到達目標		・研究デザインの種類や統計手法を理解し、研究計画書を作成できる。 ・論文を批判的に吟味できる。 ・研究計画書に基づくプレゼンテーション資料を作成し発表できる。									
回数	授　業　内　容								担　当		
1	オリエンテーション 基礎知識の整理①								花岡 秀明		
2	基礎知識の整理②								花岡 秀明		
3	文献レビューと抄読会資料の作成 興味を持っているテーマについて、文献検索を行い、資料を作成する								花岡 秀明		
4	文献抄読会 作成した資料を用いて、抄読会を行う								花岡 秀明		
5	文献レビューと抄読会資料の作成 興味を持っている同じテーマについて、文献検索を行い、資料を作成する								花岡 秀明		
6	文献抄読会 作成した資料を用いて、抄読会を行う								花岡 秀明		
7	仮の研究計画を作成① 文献レビューで得た情報に基づき、研究計画を作成する								花岡 秀明		
8	仮の研究計画を作成② 文献レビューで情報に基づき、研究計画を作成する								花岡 秀明		
9	研究計画の発表とまとめ 各グループで検討した計画を紹介し、ディスカッションを行い、理解を深める								花岡 秀明		
10~28	研究デザイン、研究計画書の作成 担当教員の指導のもと研究デザイン、研究計画書の作成を行う								吉田 俊輔		
29~30	発表								吉田 俊輔		
アクティブ ラーニング		グループワークにて、文献レビューから文献抄読、研究計画書の作成といった一連の流れを体験して、個々の研究計画につなげる。									
評価基準		授業への出席状況・態度:20%、研究計画書:50%、プレゼンテーション:30%で判定する。									
教科書		1) 山本澄子 / 谷浩明：すぐできる！リハビリテーション統計　改訂第2版. 南江堂, 2019									
参考書		1) 柳井 久江：4Steps エクセル統計（第5版）.　オーエムエス出版, 2023 2) 一般社団法人　日本作業療法士協会：作業療法研究法マニュアル　改訂第3版, 2019									
実務経験に 関する記述											

授業科目名		評価法Ⅰ（身障）－2		（フリガナ） 担当教官名		ニシコ　オリ　ケン　ジ 錦　織　健　次		
開講学期		前期						
対象学科 及び学年		作業療法学科　2年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要		作業療法に必要な身体障害領域の評価の意義と測定方法を理解することを目的とする。 併せて障害像の理解と原因を把握するための検査項目の選択や方法を演習を通じて学ぶ。 各検査に対して、評価の意義や目的、方法、注意事項、記録方法、対象者への説明と同意について講義と実技を通じて学ぶ。						
到達目標		・身体障害領域の評価の意義を理解し、必要に応じて検査を選択することができる。 ・対象者に説明と同意を得た上で安全に配慮しながら検査を実施することができる。 ・結果について正確に記録を行った上で対象者に説明できる。						
回数	授業内　　容							担　当
1	上肢機能の理論と評価の実践 (STEF・MFT・ARAT・MAL など)							錦織健次
2	上肢機能の理論と評価の実践 (STEF・MFT・ARAT・MAL など)							錦織健次
3	徒手筋力検査法 (MMT) 総論 (検査選択、記録、対象者への説明等)							錦織健次
4	各論：徒手筋力検査法 (MMT) 上肢（実技）							錦織健次
5	徒手筋力検査法 (MMT) 上肢（実技）							錦織健次
6	徒手筋力検査法 (MMT) 下肢（実技）							錦織健次
7	徒手筋力検査法 (MMT) 下肢（実技）							錦織健次
8	徒手筋力検査法 (MMT) 体幹・頸部・手指（実技）							錦織健次
アクティブ ラーニング		アクティブラーニングの内、「LTD」の手法を用い、実技内容について自己学習能力や思考力、チームワークを高めながら、実技の実践を体験する学習方略を取る。						
評価基準		筆記試験 40%、実技試験 60%で成績判定を行う。 ただし、実技試験全 2 回：前半（MMT 上肢・手指）、後半（MMT 下肢・体幹）。 筆記試験と実技試験は別々で合否を出し、基準以下の場合は再試験を実施する。						
教科書		1. 潮見泰蔵他編；リハビリテーション基礎評価学　第 2 版、羊土社 2. 新・徒手筋力検査法 原著第 10 版、協同医書出版						
参考書		田崎義昭（著）：ベッドサイドの神経の診かた　第 18 版、南山堂						
実務経験に 関する記述		医療機関、高齢者施設で 19 年の臨床経験を持つ教員が作業療法評価について実践教育を行う。						

授業科目名		評価法Ⅱ（精神）		（フリガナ） 担当教官名		コ 小 バヤシ 林 マサ 成 ト 人・増 マス ザキ 崎 ケン 堅 ト 斗					
開 講 学 期		前期									
対 象 学 科 及 び 学 年		作業療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別		必修		
科 目 概 要		精神障害領域における評価の意義を理解することを目的とする。 また各種検査項目、面接、観察の技法を学び治療アプローチへスムーズに繋げられるように学習する。									
到 達 目 標		精神疾患を持った方へ適切な評価を実施できるようになる。									
回数	授 業 内 容								担 当		
1	精神疾患の概要								小林		
2	精神疾患に対する評価法を知る								小林		
3	精神疾患に対する評価法を知る								小林		
4	心理検査について								小林		
5	情報収集の流れを知る								増崎		
6	観察評価について								増崎		
7	観察評価について								増崎		
8	観察評価について								増崎		
9	面接技法について								増崎		
10	面接技法について								増崎		
11	面接技法について								増崎		
12	観察・面接のグループワーク演習								小林		
13	観察・面接のグループワーク演習								小林		
14	観察・面接のグループワーク演習								小林		
15	観察・面接のグループワーク演習								小林		
アクティブ ラーニング		各種評価バッテリーを用いた評価法や面接、観察などをグループワークを通して実際に体験し、ディスカッションを行い理解を深め、技術を修得する。									
評 価 基 準		期末試験 100%									
教 科 書		精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編集 中央法規出版									
参 考 書		山根 寛著：精神障害と作業療法、第3版、三輪書店 松井紀和著：精神科作業療法の手引き、牧野出版 早坂友成著：精神科作業療法の理論と技術、MEDICAL VIEW 社									
実務経験に 関する記述		精神科病院に従事し、臨床経験を積んだ教員が、精神疾患における評価法を具体的な事例を提示し教育を行う。									

授業科目名		評価法Ⅲ（発達）		（フリガナ） 担当教官名		ニシコ　オリ　ケン　ジ　・　イワ　タ　ジュン　ヤ 錦　織　健　次　・　岩　田　淳　也		
開　講　学　期		後期						
対　象　学　科 及　び　学　年		作業療法学科　2年	時　間　数 単　位　数	30 1	授　業 形　態	演習	必修・選択 の　別	必修
科　目　概　要		発達障がい領域に関わる作業療法の役割を理解し、基礎的学力を身に付ける。 発達障がい領域の作業療法治療に必要な評価内容を習得する。						
到　達　目　標		1. 正常発達と反射・反応を習得する。 2. 小児分野における身体・精神・社会・言語的評価方法を習得する。 3. 発達障がい領域の作業療法評価について説明できる。						
回数	授　　　　　業　　　　　内　　　　　容							担　　当
1	Ⅰ．オリエンテーション 発達障がい領域の歴史・社会的背景							錦織健次
2	発達の基礎（運動発達、上肢機能、目と手の発達、反射・反応、認知機能、社会性）							錦織健次
3	遊びの発達と遊びを通した作業療法評価							錦織健次
4	Ⅱ．個別場面における作業療法評価 肢体不自由児・者の作業療法評価 その①							錦織健次
5	肢体不自由児・者の作業療法評価 その②							錦織健次
6	重症心身障がい児・者の作業療法評価 その①							錦織健次
7	重症心身障がい児・者の作業療法評価 その②							錦織健次
8	知的障がい・発達障がい（自閉スペクトラム症、ADHD、LD）の作業療法評価							錦織健次
9	検査・評価法（全般的発達検査、知能検査、運動機能検査等）							錦織健次
10	保育／介護者からみた評価 乳幼児健診と作業療法評価							錦織健次
11	Ⅲ．集団場面における作業療法評価　放課後等デイサービスにおける事例							岩田淳也
12	集団場面における作業療法評価　放課後等デイサービスにおける事例							岩田淳也
13	放課後等デイサービスにおける評価の実践（実習）							岩田淳也
14	放課後等デイサービスにおける評価の実践（実習）							岩田淳也
15	放課後等デイサービスにおける評価の実践（実習）							岩田淳也
アクティブ ラーニング		各種評価をビデオやグループ毎にディスカッションを繰り返しながら実践する。加えて現場での実践を通し技術を習得する。						
評　価　基　準		期末テスト 60%、レポート 30%、授業態度と出席状況 10%						
教　科　書		笹田哲（編）「発達段階×領域別で理解度 Up！イラストと動画で学ぼう！人間発達学」 診断と治療社						
参　考　書		イラストでわかる発達障害の作業療法第1版．上杉雅之、辛島千恵子編集．医歯薬出版株式会社． 岩崎清隆、鴨下賢一：発達障害の作業療法基礎編　第3版　三輪書店 楠本泰士、友利幸之介：統合と解釈のための小児リハ評価ガイド　メディカルビュー社						
実務経験に 関する記述		発達障がい児者を対象とした作業療法実践に9年間従事した教員が、発達の基礎を抑えた上で発達障がい児者に対する評価の実践を教育する。						

授業科目名		評価法Ⅳ（高次脳）		(フリガナ) 担当教官名		アオ 青		キ 木		リュウタロウ 竜太郎	
開 講 学 期		後期									
対 象 学 科 及 び 学 年		作業療法学科 2年		時間数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演習	必修・選択 の 別	必修		
科 目 概 要		高次脳機能障害は、作業療法の対象者に比較的好く見られる障害である。その圧倒的多数が脳原性疾患をもっているという現実からきている。本科目では、高次脳機能障害における基本的な概要や症状鑑別を行うための脳画像の見かたについて学び、高次脳機能障害を適切に評価できるようになることを目指す。									
到 達 目 標		①高次脳機能障害に関する基本的な概念を理解することができる。 ②脳画像の読解に必要な基礎知識を身につけることができる。 ③高次脳機能障害に対する評価のプロセスや神経心理学的検査の方法を学ぶ。									
回数	授 業 内 容									担 当	
1	高次脳機能障害とは（総論）：定義および治療原則について									青木竜太郎	
2	脳画像の見かた（総論）：画像読解に必要な基礎知識									青木竜太郎	
3	高次脳機能障害とは（各論）：脳の神経解剖と画像の見方									青木竜太郎	
4	高次脳機能障害における評価の基礎・組み立てかた									青木竜太郎	
5	高次脳機能障害におけるスクリーニング評価									青木竜太郎	
6	注意障害の概論と評価の実践①									青木竜太郎	
7	注意障害の概論と評価の実践②									青木竜太郎	
8	記憶障害の概論と評価の実践①									青木竜太郎	
9	記憶障害の概論と評価の実践②									青木竜太郎	
10	遂行機能障害の概論と評価の実践①									青木竜太郎	
11	遂行機能障害の概論と評価の実践②									青木竜太郎	
12	半側空間無視の概論と評価の実践①									青木竜太郎	
13	半側空間無視の概論と評価の実践②									青木竜太郎	
14	失認・失行・失語の概論と評価の紹介									青木竜太郎	
15	自動車運転評価の実践									青木竜太郎	
アクティブ ラーニング		・シラバスから学修内容を理解し、各回におけるテーマを事前に予習し授業に臨む。 ・アクティブラーニングの内、「ピアインストラクション」の手法を用い、実技内容についてペアの学生同士で教えあうことで思考プロセスに他者視点を取り込んで、より客観性を持った形で自身の問題を明確に意識しやすくする学習方略をとる。									
評 価 基 準		期末試験（100%）：講義内容の知識の定着を確認する。									
教 科 書		鎌倉矩子・本多留美：高次脳機能障害の作業療法 第一版 三輪書店 高次脳機能障害マエストロシリーズ② 画像の見かた・使い方 医歯薬出版 高次脳機能障害マエストロシリーズ③ リハビリテーション評価 医歯薬出版									
参 考 書		高次脳機能障害マエストロシリーズ① 基礎知識のエッセンス 医歯薬出版									
実務経験に 関する記述		総合病院において、8年間専任作業療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟、医療療養型病棟、外来における高次脳機能障害の治療に関わった教員が、障害や症状を評価するための脳画像や検査、観察方法について、具体的な事例を提示し、実践教育を行う。									

授業科目名		作業療法治療学Ⅰ-1(中枢系)		(フリガナ) 担当教官名		アオ 青		キ 木		リュウタロウ 竜太郎		モリ 森		ワキ 脇		シゲ 繁		ト 登	
開 講 学 期		後期																	
対 象 学 科 及 び 学 年		作業療法学 2 年		時 間 数 単 位 数		60 2		授 業 形 態		演 習		必修・選択 の 別		必修					
科 目 概 要		作業療法における身体障害領域（中枢神経疾患）の各種疾患について、その障害を理解し、対象者を作業的存在として捉えた上での対象者への直接的、また環境や社会の観点を包含した評価・治療・援助方法を学ぶ。授業内での講義・演習等を通じ、医療・福祉領域での作業療法士の求められる役割を再考する。																	
到 達 目 標		・ 中枢神経疾患の作業療法の流れを理解し、説明できる。 ・ 各疾患の特徴（症状と障害）を説明できる。 ・ 各疾患ごとに必要な評価項目を選択・実施できる。 ・ 各疾患に必要な治療・援助方法を提案でき、一部模擬実施できる。 ・ 身体障害分野での作業療法士の役割と職種の意義について説明できる。																	
回数	授 業 内 容													担 当					
1	身体障害作業療法概論													青木竜太郎					
2	身体障害作業療法概論・脳画像診断													青木竜太郎					
3	作業療法評価（協調性検査・筋緊張 MAS、バランス）													青木竜太郎					
4	作業療法評価（MAL・片麻痺検査 BRS、FMA、上田 12 グレード）													青木竜太郎					
5	作業療法評価（MAL・片麻痺検査 BRS、FMA、上田 12 グレード）													青木竜太郎					
6	片麻痺患者に対する治療の検討													青木竜太郎					
7	片麻痺患者に対する治療の演習													青木竜太郎					
8	片麻痺患者に対する姿勢分析（臥位・座位・立位）													青木竜太郎					
9	片麻痺患者に対する動作分析（寝返り・起居・立ち上がり・歩行）													青木竜太郎					
10	片麻痺患者に対する動作分析（寝返り・起居・立ち上がり・歩行）													青木竜太郎					
11	片麻痺患者の日常生活活動における自助具・福祉用具の選定													青木竜太郎					
12	片麻痺患者の日常生活活動分析演習													青木竜太郎					
13	片麻痺患者の日常生活活動分析演習													青木竜太郎					
14	基本的治療技術概論（ROM-ex、筋力増強、CI療法、促通反復療法、神経筋促通法、電気刺激療法）													青木竜太郎					
15	基本的治療技術演習（ROM-ex、筋力増強）													青木竜太郎					
16	模擬事例に対する演習（評価立案・ICF 分類）													青木竜太郎					
17	模擬事例に対する演習（ICF 分類）													青木竜太郎					
18	模擬事例に対する演習（臨床思考図）													青木竜太郎					
19	模擬事例に対する演習（治療立案）													青木竜太郎					
20	模擬事例に対する演習（発表・統合と解釈の体験）													青木竜太郎					
21	トランスファー演習（技術と治療の視点）													青木竜太郎					
22	トランスファー演習（技術と治療の視点）													青木竜太郎					
23	ポジショニング演習（褥瘡予防・臥位での活動性向上）・シーティング演習（機能的シーティング）													青木竜太郎					
24	ポジショニング演習（褥瘡予防・臥位での活動性向上）・シーティング演習（機能的シーティング）													青木竜太郎					
25	神経筋疾患の作業療法（概要・症状・リハビリ内容等をまとめる）													青木竜太郎					
26	神経筋疾患の作業療法（概要・症状・リハビリ内容等をまとめる）													青木竜太郎					
27	神経筋疾患の作業療法（概要・症状・リハビリ内容等をまとめる）													青木竜太郎					
28	神経筋疾患の作業療法（発表）													青木竜太郎					
29	神経筋疾患の作業療法の実践													森脇繁登					
30	神経筋疾患の作業療法の実践													森脇繁登					
アクティブ ラーニング		アクティブラーニングの内、「ピアインストラクション」の手法を用い、実技内容についてペアの学生同士で教えあうことで思考プロセスに他者視点を取り込んで、より客観性を持った形で自身の問題を明確に意識しやすくする学習方略をとる。																	
評 価 基 準		期末試験：60% 実技試験：40% ただし、期末試験・実技試験はそれぞれに基準を設ける。一方で 60% 未満の場合は、期末試験、実技試験、またはその両方が再試験とする。																	
教 科 書		・ 潮見泰蔵他編：PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版、羊土社 ・ 柴喜崇編：PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第2版、羊土社																	
参 考 書		授業の進行とともに適宜紹介する ・ 菅原洋子編 作業療法全書 4 身体障害 改訂第3版 協同医書 ・ 山本伸一編 中枢神経疾患に対する作業療法 第1版 三輪書店																	
実務経験に 関する記述		総合病院において、8年間専任作業療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟、医療療養型病棟、外来における神経疾患の治療に関わった教員が、障害や症状に応じた機能回復訓練、代償方法、応用動作訓練について、具体的な事例を提示し、実践教育を行う。																	

授業科目名		作業療法治療学Ⅱ（精神）－1		（フリガナ） 担当教官名		ッ 津 タ 田 コウ 宏 タ 太 ロウ 郎		
開 講 学 期		後期						
対 象 学 科 及 び 学 年		作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		作業療法における精神障害領域の各種疾患について、障害特性を理解し、疾患を持たれた対象者に対し適切な評価、治療計画を立てれるような講義を実施する。 また、国家試験や臨床実習を想定した学習も行う。						
到 達 目 標		各種精神疾患に対して適切なアプローチ（評価、目標立案、治療）を実施できるようになる。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	オリエンテーション							津田宏太郎
2	精神科作業療法の歴史							津田宏太郎
3	精神科医療の基礎知識							津田宏太郎
4	統合失調症急性期に対する作業療法							津田宏太郎
5	統合失調症急性期に対する作業療法							津田宏太郎
6	統合失調症回復期に対する作業療法							津田宏太郎
7	統合失調症回復期に対する作業療法							津田宏太郎
8	統合失調症維持期に対する作業療法							津田宏太郎
9	統合失調症維持期に対する作業療法							津田宏太郎
10	統合失調症症例を用いたアプローチ（グループワーク）							津田宏太郎
11	国家試験から見る統合失調症							津田宏太郎
12	国家試験から見る統合失調症							津田宏太郎
13	国家試験から見る統合失調症							津田宏太郎
14	SST について							津田宏太郎
15	SST について							津田宏太郎
アクティブ ラーニング	指定されたテーマについて、グループワークを行いながら、知識の定着や理解を促す。							
評 価 基 準	期末試験 90% 出席日数・授業態度 10%							
教 科 書	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 堀田英樹編集 中央法規出版							
参 考 書	富岡詔子、小林正義編：作業療法全書（改定第3版）第5巻「作業治療学2 精神障害」、日本作業療法士会、協同医書出版							
実務経験に 関する記述	精神科病院において12年間従事し、臨床経験を積んだ教員が、精神疾患における治療法を具体的な事例を提示し、教育を行う。							

授業科目名		地域マネジメント論		(フリガナ) 担当教官名		ヨシダ ジュン スケ 吉 田 俊 輔		
開 講 学 期		前期						
対 象 学 科 及 び 学 年		作業療法学科 2年	時間数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演習	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要		本科目では高齢者の通いの場において、高齢者への面接を実施し、その人の生活を構成する作業（生活行為）の遂行状況や通いの場を利用する意味などを聴取する。面接内容を踏まえ、学生は作業に関する具体的評価と一部介入を体験する。これらの演習を通じて、生活をマネジメントするスキルを学習する。						
到 達 目 標		1. 面接において高齢者の生活を構成する作業（生活行為）の遂行状況や通いの場を利用する意味などを聴取し、ワークシートにまとめることができる 2. 作業の内実を把握するための評価を一部実施できる（COPM、FIM、FAI、LSA、作業バランス評価、その他背景因子に関する評価などを一部活用） 3. 模擬的に目標設定および介入計画を立案することができる						
回数	授 業 内 容							担 当
1	オリエンテーション 演習に関する説明							吉田俊輔
2	演習準備							吉田俊輔
3	演習①：高齢者に対する面接、評価（通いの場）							吉田俊輔
4	演習①：高齢者に対する面接、評価（通いの場）							吉田俊輔
5	演習①：高齢者に対する面接、評価（通いの場）							吉田俊輔
6	演習①：高齢者に対する面接、評価（通いの場）							吉田俊輔
7	演習②：統合と解釈（学内）							吉田俊輔
8	演習②：統合と解釈（学内）							吉田俊輔
9	演習③：生活行為の質が向上するためのプランを立案（学内）							吉田俊輔
10	演習③：生活行為の質が向上するためのプランを立案（学内）							吉田俊輔
11	演習④：地域資源を活用した介入の実施（通いの場）							吉田俊輔
12	演習④：地域資源を活用した介入の実施（通いの場）							吉田俊輔
13	演習④：地域資源を活用した介入の実施（通いの場）							吉田俊輔
14	演習④：地域資源を活用した介入の実施（通いの場）							吉田俊輔
15	まとめ							吉田俊輔
アクティブ ラーニング		地域実践活動演習の中で得られた情報を基に、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。						
評 価 基 準		演習への取り組み姿勢 50%、成果物 50%						
教 科 書								
参 考 書		・一般社団法人日本作業療法士協会編著：作業療法マニュアル 75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 ・一般社団法人日本作業療法士協会編著：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 医歯薬出版株式会社						
実務経験に 関する記述		急性期から生活期まで約10年間の臨床経験を持つ教員が担当する。						

授業科目名		地域作業療法論		(フリガナ) 担当教官名		ニシコ 錦 オリ 織 ケン 健 ジ 次・ヨシ 吉 ダ 田 シュン 俊 スケ 輔			
開 講 学 期		後期							
対 象 学 科 及 び 学 年		作業療法学科 2 年	時 間 数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演 習	必修・選択 の 別		必修
科 目 概 要		地域包括ケアシステムでは保健・福祉の視点をふまえ、医療と連携した患者及び障害児者、高齢者の日常生活、就労、就学など分野を越えた多岐に渡る支援が作業療法士に求められる。この授業では障害の有無に関わらず、地域における作業療法支援を学ぶ。							
到 達 目 標		・ 地域作業療法の基盤と背景について説明できる。 ・ 地域作業療法を支える制度について説明できる。 ・ 地域作業療法支援（評価、アセスメント、介入、他）が模擬的に実施できる。							
回数	授 業 内 容								担 当
1	オリエンテーション：授業の目的・到達目標・授業の概要・グループ決め・学修の準備（課題作成と準備物の連絡）について担当教員が説明する。 地域作業療法の基盤と背景：地域という言葉の意味、地域医療の成り立ちについて								錦織健次
2	地域作業療法の基盤と背景：地域リハの概念、ノーマライゼーションについて								錦織健次
3	地域作業療法の基盤と背景：地域 OT の基盤、生活障害・医学モデルと生活モデルについて								錦織健次
4	地域作業療法の基盤と背景：CBR の考え方について								錦織健次
5	地域作業療法を支える制度：社会保障制度、障害者総合支援法、地域生活支援事業、精神保健福祉法について								錦織健次
6	地域作業療法を支える制度：介護保険制度、介護予防と地域支援事業について								錦織健次
7	地域作業療法を支える制度：介護保険制度、介護予防と地域支援事業について								錦織健次
8～9	地域診断について、実践（一部）								錦織健次
10	発表								錦織健次
11	個別支援を通じた地域作業療法の実践：課題抽出、目標設定、チームアプローチ、評価について								吉田俊輔
12	集団支援を通じた地域作業療法の実践：課題抽出、目標設定								吉田俊輔
13	地域診断を基にアセスメントをして課題を見つける								吉田俊輔
14	課題に対する作業療法士が貢献できる関わりを考える								吉田俊輔
15	発表								吉田俊輔
アクティブ ラーニング		学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。							
評 価 基 準		グループワーク成果物及び発表 60%、レポート 30%、授業態度（グループワークへの参加、発表等） 10%							
教 科 書		大熊 明編集：標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第 4 版、医学書院。							
参 考 書		一般社団法人日本作業療法士協会編著太田睦美編集：作業療法学全書第 13 巻地域作業療法学 改訂第 3 版、協同医書							
実務経験に 関する記述		10 年以上の臨床経験や地域生活支援事業に関わった経験を持つ教員が担当する。							

授業科目名	義肢学		(フリガナ) 担当教官名		オオツカアキラ 大塚 彰		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要	<p>下肢義肢・上肢義肢義肢（義足・義手）に関して、理学療法士・作業療法士に必要な基本的な知識を学修します。すなわち、義足においては基本的な構造、ソケットの種類、ベンチアライメント・静的アライメント・動のアライメントなどを学びます。義手に関しては、処方からパーツを考えて実習として、弾力包帯の施行とギプス採型の実験を経験します。</p>						
到達目標	義肢の実験および切断のリハビリテーションの実験を理解する。						
回数	授 業 内 容						担 当
1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢とは・大腿義足（ソケット、膝継手、足部） ・大腿義足（ベンチ・静的・動のアライメント） ・大腿義足（異常歩行とその修正） 						大塚 彰
4・5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・下腿義足（各種ソケット・アライメント・異常歩行） ・股義足・膝義足・サイム義足の特徴 ・下肢切断者のリハビリテーション（評価・ポジショニング・断端ケアとしての弾力包帯の施行など） 						大塚 彰
7・8・9	<ul style="list-style-type: none"> ・義手：分類・処方と義手構成・機構など（1） ・処方と構成・機構など部品の解説（2） ・機構と部品の解説（3） 						大塚 彰
10・11・12	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーネスコントロールシステムなど ・義手のチェック ・電動義手 						大塚 彰
13・14・15	<ul style="list-style-type: none"> ・実習（ギプス採型など） ・実習 ・実習 						大塚 彰
アクティブ ラーニング	ギプス採型実習および模擬義肢の試着 切断者を知るための経験として						
評価基準	出席、態度、テスト等で総合判定する						
教科書	① 15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学 中山書店 第2版 ISBNコード 978-4-521-73225-1 ② 義肢装具のチェックポイント 医学書院 第9版						
参考書	① イラストでわかる義肢療法 医歯薬出版株式会社						
実務経験に 関する記述	徳島大学附属病院・愛媛大学附属病院での切断者のリハビリテーションの経験および筋電制御電動義手、特にハンドの開発研究に従事						

授業科目名	臨床実習 I		(フリガナ) 担当教官名		各臨床実習施設指導者・全専任教員		
開 講 学 期	後期						
対 象 学 科 及 び 学 年	作業療法学科 2年	時 間 数 単 位 数	45 1	授 業 形 態	実習	必修・選択 の 別	必修
科 目 概 要	本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて作業療法業務を学ぶ実習科目である。 業務の見学や補助を通じて、作業療法士の業務について理解を深めるとともに、社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および臨床実習指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度を育成することを目的とする。						
到 達 目 標	・作業療法士の基本的な業務内容を理解できる。 ・関連職種との連携の重要性を理解できる。 ・掃除、送迎、雑用等の業務を補助できる（診療補助は除く）。 ・社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度をとることができる。						
授 業 内 容							担 当
臨床実習 時間：40 時間（1 週間：5 日間） 場所：医療施設もしくは医療外施設 内容：業務の見学や補助を通じて、作業療法士の業務について理解を深めるとともに、社会人、医療従事者として相応しい意識と患者（利用者）および臨床実習指導者をはじめとする臨床現場の職員に対する適切な態度を身に付ける。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1 週間の施設実習時間は、40 時間とし、家庭学習時間を含め 45 時間以内とする。							臨床実習 指導者
アクティブ ラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。						
評 価 基 準	総合評価は学院教員にて実施する。 臨床実習態度 30%、臨床実習後の提出課題内容 30% 実習報告会の内容 40%						
教 科 書	島根リハビリテーション学院 作業療法学科 臨床実習要綱						
参 考 書							
実務経験に 関する記述	臨床実習指導者は、5 年以上実務に従事した者が担う。						

授業科目名		総合演習Ⅱ		(フリガナ) 担当教官名		理学・作業療法学科教員		
開講学期		通年						
対象学科 及び学年		理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	時間数 単位数	60 2	授業 形態	演習	必修・選択 の別	必修
科目概要		本科目は、理学療法・作業療法の対象となる臨床心理学、精神医学、神経内科学、整形外科の知識を統合することを目的としている。授業前の事前学習後に講義を行い、グループワークを中心に理解を深めていく。						
到達目標		2年次に学修すべく臨床心理学、精神医学、神経内科学、整形外科を復習し、その知識を用いて3年次に行う理学療法治療学・作業療法治療学に応用していく基礎を身につけることができる。						
回数	授業内 容						担 当	
1～4	精神医学分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
5～8	脳血管疾患分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
9～16	神経筋疾患分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
17～22	臨床心理学分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
23～30	整形外科疾患分野						理学療法学科・ 作業療法学科 教員	
アクティブ ラーニング		病態の解釈および到達度に沿った暗記、暗記確認に取り組む。 1. 科目担当教員から事前に分野についての資料提示がある。その後、学生は個人で事前学習として資料内容を確認しておく。 2. 科目担当教員が講義後、理解を深める。 3. 分野について暗記・口頭試問などを行い、理解の程度を確認する。 4. 科目担当教員は過去問題を提示する。その後、学生は問題を解き、間違えた問題について、問題の解釈や解き方等について復習する。						
評価基準		試験 90%、出席状況 10%にて評価する。 ※試験は、各分野の講義後（1週間後）に実施する。 5分野毎に試験（それぞれ 100 点）を行う。試験において 60 点に到達しない場合は再試験を受験することができる。						
教科書		適宜、資料を配布する						
参考書		国試の達人 臨床医学編 (株)アイベック						
実務経験に 関する記述								

授業科目名	医学英語		(フリガナ) 担当教官名		岩 田 淳		
開 講 学 期	通年						
対 象 学 科 及 び 学 年	理学療法学科 2 年 作業療法学科 2 年	時間数 単位数	60 2	授 業 形 態	演習	必修・選択 の別	自由選択
科 目 概 要	<p>医療従事者にとって、英語は医療情報の収集や共有において不可欠なツールです。訪日や在日外国人患者の増加に伴い、日本語が通じない患者さんと円滑なコミュニケーションをとるためにも、英語のスキルがますます求められています。この科目では、医療やリハビリテーションに関する基本的な英語専門用語の習得、様々なリハビリテーションの場面を想定した医療会話のリスニング演習、そしてロールプレイを通じて、理学療法士や作業療法士として必要な基礎的で実践的な英語コミュニケーション能力を身につけます。</p> <p>英語の得意・不得意に関わらず、「医学英語の基礎を学びたい」と考える方や、「リハビリの現場で実際に使える英会話力を身につけたい」という方におすすめの授業です。ぜひ、幅広い医療状況に対応できる英語スキルを身につけ、自身の専門領域でより一層活躍できるようになりましょう。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療やリハビリテーションに関する基本的な英語の専門用語が理解できる。 ・医療やリハビリテーションのさまざまな場面の英会話を聞いて内容が理解できる。 ・医療やリハビリテーションに関するさまざまな説明を英語を使って表現できる。 						
回数	授 業 内 容						担 当
1	授業ガイダンス（前半の授業の進め方、評価）						岩田
2	Lesson 1: 挨拶：初回の挨拶をしよう						岩田
3	Lesson 2: 問診(1): 痛む部位を聞いてみよう						岩田
4	Lesson 3: 問診(2): 痛みの種類や程度を聞いてみよう						岩田
5	Lesson 1-3のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (1)						岩田
6	Lesson 4: 問診(3): 痛みの経過を聞いてみよう						岩田
7	Lesson 5: 肢位設定(1): 基本的な肢位を指示してみよう						岩田
8	Lesson 6: 肢位設定(2): 応用的な肢位を指示してみよう						岩田
9	Lesson 4-6のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう(2)						岩田
10	Lesson 7: 評価(1): バイタルサインを確認しよう						岩田
11	Lesson 8: 評価(2): 自動可動域を測定してみよう						岩田
12	Lesson 9: 評価(3): 他動可動域を測定してみよう						岩田
13	Lesson 7-9のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう(3)						岩田
14	Lesson 10: 評価(4): 体幹の可動域を測定してみよう						岩田
15	Lesson 11: 評価(5): 頸部の可動域を測定してみよう						岩田
16	Lesson 12: 評価(6): 筋力を測定してみよう						岩田
17	Lesson 10-12 のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (4)						岩田
18	Lesson 13: 評価 (7): 触覚検査をしてみよう						岩田
19	Lesson 14: 評価 (8): バランス検査をしてみよう						岩田
20	Lesson 15: 評価 (9): 歩行評価をしてみよう						岩田
21	Lesson 13-15 のまとめと確認。英語の歌をきいてみよう (5)						岩田
22	Lesson 16: 治療 (1): ホームエクササイズを指導してみよう						岩田
23	Lesson 17: 治療 (2): RICE 処置をしてみよう						岩田
24	Lesson 18: ADL(1): 移乗動作の練習をしてみよう						岩田
25	Lesson 19: ADL(2): 食事の評価と指導をしてみよう						岩田
26	Lesson 16-19 のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (6)						岩田
27	Lesson 20: 環境調整 (1): 適切な歩行補助具を選択してみよう						岩田
28	Lesson 21: 環境調整 (2): 自宅のトイレを改修してみよう						岩田
29	Lesson 22: 退院: 退院後の生活指導をしてみよう						岩田
30	Lesson 20 - 22 のまとめと確認。英語の歌を聞いてみよう (7)						岩田
アクティブ ラーニング	ペアワークによる英会話のロールプレイを行います。						
評価基準	確認テスト 70%、授業への取組み 30%						
教科書	『PT・OP が書いたリハビリテーション英会話』 三木貴弘他著・Medical View 社 2,640 円（税込）						
参考書	プリント教材（配布）						
実務経験に 関する記述	島根大学医学部にて 17 年間にわたり専門的な医学英語教育の実績を有する教員が、専門英語教育の教材や教授法を用いて、理学療法士・作業療法士として必要となる医学英語コミュニケーション能力の養成を目指した専門教育を行う。						

授業科目名		チャイルドサポート		(フリガナ) 担当教官名		ヒキノリ絵		
開講学期		前期						
対象学科 及び学年		作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択
科目概要		1) 全ての子どもたちが、生き生き、のびのび、その子らしく幸せに生きていく社会の実現に向けて、その子の暮らしの場の一つである放課後児童クラブにて、障がいの有無という枠組みを超えた視点を持ちながら、実際の関わりを通して子どもたちの日々の姿と成長の過程を体験する。 2) また、放課後児童クラブの役割、職員の方々の思いや業務内容を知ること、他職種の文化を理解し、他職種連携していくための基本的な考え方、姿勢を学ぶ。 3) そして、子どもたちが生き生きのびのび、その子らしく幸せに生きるために、作業療法士ができることを考える。(狭義では当該放課後児童クラブに於いて、広義では地域社会に於いて)						
到達目標		1. 安全面に配慮しながら、子どもたちと楽しく遊び、信頼関係を築くことができる。 2. 放課後児童クラブの職員の方々と信頼関係を築きながら、子どもたちへの思いや考え方などをインタビューすることができる。 3. 先生へのインタビューから課題を明確にし、子どもたちの暮らしの場で、作業療法士ができることの具体的なアイデアを挙げることができる。						
回数	授業内容						担当	
1～2	オリエンテーション / 子どもの行動を理解するために - 感覚統合理論の基礎① 触覚 / 放課後児童クラブでの実践①						引野 里絵	
3 4	放課後児童クラブでの実践② / 子どもの行動を理解するために - 感覚統合理論の基礎② 前庭感覚						引野 里絵	
5	放課後児童クラブの先生にインタビュー (am): 先生の価値観や考え、放課後児童クラブの文化を知る						引野 里絵	
6 7	放課後児童クラブでの実践③ / 子どもの行動を理解するために - 感覚統合理論の基礎③ 固有感覚						引野 里絵	
8	放課後児童クラブの先生にインタビュー：インタビューより、課題の明確化 (am)						引野 里絵	
9 10	放課後児童クラブでの実践④ - 課題解決の実践 1 / 実践 1 の振り返り						引野 里絵	
11 12	放課後児童クラブでの実践⑤ - 課題解決の実践 2 / 実践 2 の振り返り						引野 里絵	
13～14	放課後児童クラブでの実践⑥ - 課題解決の実践 3 / 実践全体の振り返り						引野 里絵	
15	課題発表 (am) 1) 放課後児童クラブの役割、先生方の役割、思いを知る 2) その子・その子達・先生方が、より生き生きのびのび幸せに過ごすための課題を見出す 3) 課題解決に向けて、具体的なプログラムを考え、実践する 4) 行なった実践の振り返りと、今後の改善策を考える						引野 里絵	
アクティブ ラーニング		1. 課題 1) ～ 4) を提示 2. 演習では、放課後児童クラブで子どもたちと一緒に楽しく過ごし、職員の方にインタビューする体験をする 3. 各演習後に振り返りを行い、子どもたちへの関わりについて学び、次回の演習に活かす 4. 必要な情報は、主体的に調べたり、聴取するなどして、情報収集する 5. 体験・学習したこと、考えたことをまとめて (レポート)、わかりやすく発表する						
評価基準		放課後児童クラブでの演習における態度 50%、課題提出・発表 50% ※演習における態度：子どもたちと信頼関係を築こうとしているか、その日の振り返りにおける質疑応答の内容にて評価する ※課題レポートの提出期日が厳守できているか、発表の際の質疑応答、出席状況にて評価する。 ※評価基準の総得点が 60 点に到達しない場合は 1 回のみ再試験を行う。再試験は授業内容に関するレポート課題 (100%) を別途提示し、判定を行う。						
教科書		適宜、資料を配布する。						
参考書		1. 吉川ひろみ著：作業療法がわかる COPM・AMPS スターティングガイド、医学書院						
実務経験に 関する記述		医療・福祉・地域において、子どもの発達、特別支援教育等における他職種連携、障がいの有無という枠組みを超えた視点で子育て、子育て支援に携わっている作業療法士が、放課後児童クラブという子どもたちの暮らしの場で、子どもたちをより包括的に理解するための視点と実践を、演習および座学を通して伝える。						

授業科目名		メンタルサポート&ソーシャルネットワーク		(フリガナ) 担当教官名		未定 青 木 竜太郎		
開 講 学 期		後期						
対 象 学 科 及 び 学 年		作業療法学科 2年	時間数 単 位 数	30 1	授 業 形 態	演習	必修・選択 の 別	自由選択
科 目 概 要		精神保健医療福祉の変遷、制度や体制等について学ぶ。実際の患者から生活の場におけるメンタルヘルス、ソーシャルネットワークを把握すると共に文献を通して様々な視点を学ぶ。個人を対象とした作業療法（精神療法）の見学から評価や基礎知識を深める。						
到 達 目 標		1. 精神患者における現状を把握し作業療法士としての役割を概観できる。 2. 作業療法士の治療法の概要と特徴について理解する。 3. 各種治療法の実践の体験より、自身の作業療法への活用を考える。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	イントロダクション							青木
2	健康の社会的決定要因の概説							青木
3	精神障害者を取り巻く社会状況の変化							未定
4	精神保険医療・福祉の動向							未定
5	社会とメンタルヘルス・ソーシャルネットワーク							未定
6	メンタルヘルス・・ソーシャルネットワークの現状と課題							未定
7	対象者からの「病への語り」とナラティブアプローチの実際							未定
8	対象者からの「病への語り」とナラティブアプローチの実際							未定
9	作業療法の実践①（ポリスティックアプローチ）							未定
10	作業療法の実践②（社会生活技能訓練）							未定
11	作業療法の実践③（認知行動療法）							未定
12	作業療法の実践④（家族支援）							未定
13	作業療法の実践⑤（包括型地域生活支援プログラム）							未定
14	まとめ							青木
15	発表							青木
アクティブ ラーニング		臨床家による PBL 指導を行う中で、知識と治療のつながりを学ぶ。						
評 価 基 準		講義や演習への参加状況・態度。また、自身が考える作業療法士への活用についての発表。						
教 科 書		関連資料、文献などを適宜配布する。						
参 考 書		関連資料、文献などを適宜配布する。						
実務経験に 関する記述		臨床現場にて、精神分野に従事する作業療法士が施設内での作業療法の実践を診療参加型の形態にて指導を行う。						

授業科目名		コミュニティデザイン		(フリガナ) 担当教官名		オ尾ノヒロアキウチダサキコ アオキ木リュウタロウ		
開講学期		前期						
対象学科 及び学年		作業療法学科 2年	時間数 単位数	30 1	授業 形態	演習	必修・選択 の別	自由選択
科目概要		近年、人間の多様性の尊重等の強化がされる中、すべての虚弱な方々が自由なコミュニティや社会に効果的に参加することを可能とする目的で、リハビリテーションアプローチの一つである Community-Based Rehabilitation : CBR が用いられている。本科目では フィールドワークを通じて地域の課題を分析し、理学療法・作業療法の視点を加えた解決のための策を見つけ、地域住民に対してプレゼンテーションを行う。 ※本科目は、選択科目となっています。 ※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。						
到達目標		・ CBR の概念を理解する。 ・ 地域住民や他職種との協業の意義や必要性を知る。 ・ 地域のインフォーマルな集団において、問題発見・解決を行う。 ・ プロジェクトマネジメントを学び、課題を期間内に遂行できる能力を身につける。						
回数	授 業 内 容							担 当
1	CBR の概念について説明、実践例などを調べる							尾野・内田・青木
2	地域を知る；横田地区の立地、人口などを調べる							尾野・内田・青木
3	地域を知る；三沢地区の立地、人口などを調べる							尾野・内田・青木
4	地域を知る；地域の人に聞く							尾野・内田・青木
5	現状調査；フィールドワーク							尾野・内田・青木
6	現状調査；フィールドワーク							尾野・内田・青木
7	現状調査；フィールドワーク							尾野・内田・青木
8	現状調査；フィールドワーク							尾野・内田・青木
9	PT・OT 視点での改善点作成							尾野・内田・青木
10	PT・OT 視点での改善点作成							尾野・内田・青木
11	発表資料準備							尾野・内田・青木
12	発表資料準備							尾野・内田・青木
13	発表資料準備							尾野・内田・青木
14	地域での発表、意見交換会							尾野・内田・青木
15	地域での発表、意見交換会							尾野・内田・青木
アクティブ ラーニング	地域についてフィールドワークで得た情報から導き出した問題点などから、グループワークを行い、課題解決策を作成し、発表する。							
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）、出席及び課題から総合評価 100%							
教科書	適宜紹介							
参考書	適宜紹介							
実務経験に 関する記述								